

地球温暖化対策に仮想研究所

地球温暖化問題の解決に貢献しようと、東京大など国内4大学が今年度、仮想研究所(バーチャルラボラトリー)を発足させた。地球温暖化対策は重要性を増している

が、日本など地域レベルで何が起きるのかを正確に予測するのは現状では難しい。4大学がそれぞれの得意分野を持ち寄り、成果を共有して、将来の気候を高精度で予測していく。

連携したのは、気候モデルが得意な東京大、水循環解析に強い名古屋大、二酸化炭素観測の東北大、衛星を使った植生観測で知られる千葉大。温暖化に代表される地球環境にかかわる大学が組織的に連携したのは初めてという。

また、仮想研究所は「気候変動は長期的に取り組まなければならない問題」(中島映至・東大気候システム研究センター長)として、若手の人材育成を重視し、7年計画で取り組む。 【田中泰義】